

見て、触れて、学ぶ！ 救急の日のイベントを開催

9月13日、苅田町消防本部で救急の日のイベントが開催されました。1日救急隊長を務めた馬場小学校の水口七海さん（6年）・水口友花さん（4年）が、パンフレットの配布や応急手当体験などを元気よく呼びかけました。間近で見る救急車や救助工作車に子どもたちは目を輝かせ、消防車の放水体験や防火衣の試着では大きな歓声が上がりました。大人もAEDの使い方などを学び、会場はたくさんの家族連れの笑顔で包まれました。



空手で日本一！ 圧巻の強さで頂点へ 松崎登俐さんが全国大会優勝を報告

10月2日、新津中学校1年生の松崎登俐さんが、空手全国大会での優勝を町長に報告しました。松崎さんは、7月に大阪府で開催された2026全日本少年少女極真空道選手権大会 グランドチャンピオン・ザ・ファイナルに出場。中学1年生男子無差別の部で日頃の練習の成果を発揮し、優勝しました。松崎さんは「これから出場するすべての全国大会で優勝したい」と力強く語りました。



被災地へ届け、町の想い！ 熊本地震義援金を寄託いただきました

（一社）苅田まちづくり観光協会（写真上）が9月28日に、苅田町管工事協同組合（同中）と日産自動車九州㈱（同下）が10月1日に、令和8年熊本地震の被災者支援に向けた義援金を町へ寄託しました。
（一社）苅田まちづくり観光協会からは、野中代表理事と公式マスコットキャラクターの豊玉姫が来庁し、義援金を町長へ手渡しました。苅田町管工事協同組合の坪井さん、古井さん、矢野さんは「組合員で話し合い、町を通じて熊本を支援したいと思った」と想いを語りました。さらに、日産自動車九州㈱の小阪取締役常務執行役員や苅田町区長連合会からも義援金をお預かりしました。
町長は「皆さまの温かいお気持ちを、町が責任を持って熊本へ届けます」と謝辞を述べました。お預かりした義援金は、町から熊本県の義援金口座へ送金され、復興支援に活用されます。
町では被災者支援のため、役場や北公民館・小波瀬コミュニティセンター・西部公民館に義援金箱を設置しています。皆さまからの支援の輪を広げるため、募金箱の設置期間を令和9年3月24日まで延長しました。引き続き、温かいご協力をよろしくお願いいたします。

まちの話題 KANDA TOWN TOPICS

安全・安心なまちづくりのため 交通安全の大切さを呼びかけ！

安全・安心なまちづくりに向けて、9月24日に秋の交通安全県民運動（9月21日～30日）の一環として、街頭啓発を行いました。行橋警察署・苅田町交通安全指導員の皆さんや遠田町長が、役場周辺道路に立ち、通行中の自動車運転者一人ひとりに交通安全を訴える啓発チラシや反射材などのグッズを手渡し。「安全運転をお願いします」などと交通事故防止などを呼びかけ、町全体で交通安全意識を高める1日となりました。



地域で育む学びの輪 日本語教室で学んだ成果を発表

企業6社と町が協力して開催した「就労者のための日本語教室」で9月13日の最終日に発表会が行われました。町で働く外国人たちは、教室で学んだことや、日本の職場で困ることをテーマにしたロールプレイなどを発表。参加者は、日本語学習を通して交流を深め「ただ日本語を勉強する時間ではなく、学んで、経験して、笑って、そしてみんなで成長した大切な時間でした」と振り返りました。



100歳を迎えた方の長寿を祝う 社会福祉協議会局長と町長が訪問！

敬老の日に合わせて、9月30日に苅田町社会福祉協議会の古賀局長と町長が、今年度100歳を迎えた方々のお祝いに訪問しました。対象となった方は男性1名、女性9名の計10名。この日はこのうち2名の方を訪問し、長寿の祝い金などを手渡しました。訪問を受けた宇土信子さんは、ご家族やデイサービスの仲間たちに見守られる中、祝い状を受け取り、周囲は温かい祝福の空気に包まれました。



スターフライヤー・北九州―台北線 6年6か月ぶりに運航が再開！

9月2日、北九州空港で6年半ぶりにスターフライヤーの北九州―台北（桃園）線の運航が再開され、記念セレモニーが行われました。週3往復（水・金・日）で運航する復路初便は、消防車の放水で盛大に歓迎されました。式典で町長は「北九州には美味しい食べ物があり、文化や歴史も豊かです。台湾の皆さまにたくさん訪れていただき、この地域の魅力を知っていただきたいと思います」と話しました。

